▲　先月に続いて九重花高原　　　　（5月21日撮影）

慧光

金光寺寺報
第２６４号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

今月のことば　法語カレンダー

正しいものに遇って　正しくない自分を　知らされる

小山法城

今月のことばは、「お念仏の教えに出遇うことで、この私がいかに煩悩を抱えて自己中心的な生き方をしているのかを知らせていただく」と味わうことができます。

浄土真宗のお念仏の教えとは、煩悩に振り回され、善行の一つもできず、とても自分の力では救われ難いこの私に、阿弥陀さまが声の仏となって届いてくださっているという教えです。

阿弥陀さまが、「あなたはあなたのままでいい。私が必ずあなたを救う」と喚び続けてくださっているのです。

普段から都合のよいことばかりを口にし、ときには人の悪口も出てくるこの私の口からお念仏が出てくださるのは、そんな生き方をしているこの私を何としても救いたいと立ち上がってくださった、阿弥陀さまのおはたらきをいただいているからなのです。

お念仏を依りどころとし、いのちの行く末をお浄土と定めて歩んでいけるのが念仏者の人生です。

ご門主さまが「念仏者の生き方」において、「私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかされ」とご教示くださっているように、煩悩具足の凡夫であるこの私に届いてくださる真実の声に出遇うことによって、この身がいかに愚かな存在であるのかを知らせていただきます。そのような私を「必ず救う」と喚びかけてくださる阿弥陀さまにおまかせして、大きな安心のなかで人生を歩んでまいりましょう。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

金光寺のひと月

六月

一日　米寿該当物故者追悼法要
　　　古稀該当物故者追悼法要
二日　佐藤チエ様　五十回忌
　　　下野浄光寺　入寺式
三日　当山前坊守釋妙順　月忌
　　　西山アサエ様　七回忌
四日　西田今朝一様　三・七日忌
五日　靏田友則様　六・七日忌
六日　坊守得度習礼（十六日まで）
九日　田中美津代様　中陰・納骨
十日　青井星斗様　二十五回忌
　　　由良田信久様　二・七日忌
　　　西田今朝一様　四・七日忌
　　　教山了悟様　結婚披露宴
　　　境内地立木伐採
十一日　境内地立木伐採
十二日　靏田友則様　満中陰
十五日　梶本和美様　二十五回忌
　　　坊守得度式
十六日　大鶴高樹家　入仏式
　　　田中義雄様　臨終勤行
十七日　由良田信久様　三・七日忌
　　　木村ミツエ様　十三回忌
　　　竹本直政様　五十回忌
　　　田中義雄様　通夜
十八日　当山前住職釋依章　月忌
　　　西田今朝一様　五・七日忌
　　　曽我部善一様　三回忌
　　　曽我部房子様　七回忌
　　　田中義雄様　葬儀、火葬
　　　田中義雄様　還骨
　　　田中義雄様　初・七日忌
　　　藤本あかり様　通夜
十九日　田中義雄様　礼参り
　　　藤本あかり様　葬儀、火葬
　　　藤本あかり様　還骨
　　　藤本あかり様　初・七日忌
　　　宮崎別院責任役員・総代会
二十日　藤本あかり様　礼参り
二十四日　由良田信久様　四・七日忌
　　　吉村元明家　納骨堂建碑式
二十五日　西田今朝一様　六・七日忌
二十八日　第五十三回
　　　九州組長研修協議会
　　　（二十九日まで）
二十九日　田中義雄様　二・七日忌

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事はお受けできません。ご協力をお願いします。

◎　７月

２８日　（終日）
２９日　（午後）

６月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

２０２３年　６月　４日満５７歳
古賀東　田中　美津代　様
２０２３年　６月１６日満９３歳
中園　田中　義雄　様
２０２３年　６月１７日　満９歳
山都町　藤本　あかり　様

鞍岡の６月の天候　（アメダス）
最低気温・１０．５℃（　４日）
最高気温・３１．６℃（１９日）
夏日日数・　１５日/３１日
真夏日日数・　４日/３１日
月間総雨量・320.5mm(降雨日数・16日)
一日最大雨量・８５．０mm（３０日）

ホームページ開いています。
URL　https://konkouji.jp/
７月２日現在アクセス数　144,794人

住職ひとりごと

月日の経つのは早いものですね。今年も半年終わりました。夏至も過ぎたし、忙しくなる秋が近づいてくると思うと気分が沈みます。高千穂組組長（そちょう）任期も残り九カ月を切りました。坊守と「残り○年○カ月だ」とカウントダウンはひと月ごとでしたが、最近は「残り○○日」とほぼ毎日のカウントダウンになっています▼そんなカウントダウンの中に「娑婆の縁尽きる日」もあります。自分ではその日が何時かも分からないので当然カウントダウンはできません。しかしながら、確実にその日は来るのです。三十年先かもしれないし、明日、いえ、今日かもしれない。しかし、そのカウントダウンから目をそらしている私です▼そんな愚かな私を「必ず救うその身そのまま我にまかせよ」と喚び続けてくださる阿弥陀さまのお慈悲を喜び、「もろもろの雑行雑修、自力のこころをふりすてて、一心に阿弥陀如来我等が今度の一大事の後生御たすけ候へとたのみ申して候ふ」と尊前で領解の心を申しながら、命終のその時に備えたいと思うことです。

（住職　松井卓郎）